

令和6年9月27日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報告）

ア 令和7年度採用浜松市立小中学校教員採用選考試験の結果について

※教職員課採用管理担当課長から資料に基づき説明

（下鶴委員）志願者41人増は教職員課の努力の成果と感じている。新聞記事で、浜松市では教職員ガイダンスをはじめ、教員の魅力を発信するイベントの実施、試験早期化に伴う出願中のサポートガイダンスを実施していると紹介があったが、具体的な内容を教えていただきたい。

（教職員課）教員の魅力を発信するイベントについては、例年12月に小学校を会場として浜松市の教育の紹介とともに、若手の現役教員に登壇してもらい、実際に勤務してみている感想ややりがい、大変なこととその対処法などについて話してもらい、教員の魅力や浜松市で教員になることの魅力について発信している。会場は市内であるが、東京と名古屋にもオンライン会場を設け、またYouTubeでの生配信も行っている。直近で受験予定の方はもちろん、将来的に教員になりたいと考えている方や保護者など、対象者を限定せずに発信している。

出願期間中のサポートガイダンスについては、受験に向けて試験の仕組みや出願における留意事項の説明、個別の質問への対応など、受験を検討している方が実際に手続きを進められるようなサポートを行っている。

（下鶴委員）ぜひ継続していただきたい。

（教育長）志願者数は、令和になってから毎年増加傾向にある。その割に実質倍率が下がっているように感じられるかもしれないが、その分合格者数も増やせている。

（下鶴委員）保健体育は毎年このように倍率が高いのか。

（教職員課）今年度は特に高くなっている。昨年度は15.0倍であった。

（下鶴委員）長く体育の講師等として勤める方を見てきて、日々の教育現場で活躍できる場はないかと考える。

（学校教育部長）合格者数の増加については、志願者数の増加ができたことが大きな要因であると考えている。決して合格の水準を下げた訳ではないことをご理解いただきたい。

また、現段階では第2次試験の合格者数を示しているに過ぎず、今後、実採用にどの程度つながったかをもって、試験の早期実施の最終的な成果を判断できるものと考えている。

ただ、志願者数の増加については、教職員課の取組みを長年続けてきた成果によるものと考えている。

イ 令和6年度全国学力・学習状況調査「浜松市の結果（概要）」について

※教育センター所長から資料に基づき説明

（黒柳委員）ICTを活用した学習状況について、全国平均よりも低いという状況を受け止める必要がある。数字としては、中学校のほうが低い。中学校の教員からタブレットを活用することの難しさがあるとは聞いているが、差が出ないようにしっかり見ていただきたい。市内で特に数字が低い学校を中心に徹底的な指導をお願いする。

（教育センター）ICTを活用した授業に関しては、令和3年以降を見ると、全国平均を下回る状況が続いている。中学校では、令和3年度24.8%、令和4年度26.4%、令和5年度42.4%、令和6年度55.4%と低いながらも大幅に増加はしてきている。ただし、タブレットの活用・ログインの頻度は高いと聞いているが、実際に授業の中で活用されているかという点不十分であることが確認されている。今秋に、ICTを活用した授業公開の機会を予定している。各学校に周知しながらICT活用を進めていきたい。

（下鶴委員）無回答率が浜松市は高いように思うが、これは日頃から（わからない場合は）空欄で出す、ということが習慣づいているのではないかと思うが、何か手当が必要ではないか。

（教育センター）無回答率の高さは経年変化で見てもその傾向が見てとれる。原因が長年把握できていない状況である。教育センターとしては、「とにかく回答欄を埋めなさい」という指導も適切ではないと考えるため、実際の学校の様子も確認しながら、今後対応を検討していきたい。